



「初秋」油絵  
渡邊八重子さん（備中町長屋）



「醍醐桜」油絵  
川上深雪さん（川上町三沢）



「獅子頭」木彫り  
木口寛一さん（成羽町成羽）



「アジサイ溪」押し花  
松平カメヨさん（松原町松岡）



「キジのケンちゃん」：我が家の庭にやってきました  
杭田正さん（有漢町上有漢）



「柿」：まるで花みたい  
前M幸一さん（成羽町成羽）

## 作品の募集について

自作の川柳、短歌、俳句、絵手紙、町の風景写真、絵画など  
未発表の作品に限ります。  
一人一作品とします。  
絵画は、その写真をお送りください。  
住所・氏名・電話番号・年齢を明記の上、お送りください。  
締め切り 掲載号の前月の末日（必着）

【送り先】〒716-8501（宛先住所不要）  
高梁市役所企画課公聴広報係  
応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。  
提供いただいた写真等は返却できません  
Y 企画課公聴広報係 ☎0210  
Eメール：kikaku@city.takahashi.okayama.jp

11月号に誤りがありました。お詫びして訂正します。  
「赤かぶ」ちぎり絵（正）藤原周一さん（誤）藤岡周一さん

# 市民のページ

文芸たかはし

## 短歌

村雨の枯葉に落ちる音しげし 数羽の鴉ねぐらに急ぐ  
梅野 八郎（松山）  
平成の今こそ活かせその思想 西の方谷東の二宮  
坂田 昭夫（松原町）  
天高く山は紅葉に織りなして 庭に小菊の揺れる秋  
田中 弘子（川上町領家）  
紅葉の合間あいまに四季桜 可憐に咲きし東北の寺  
西井百合子（横町）  
草刈も冬眠になり久々に おしゃれ工房静かに仕上げ  
原田 由き（高倉町飯部）  
青き空一きわはゆる山もみじ ながれるくもにも晩秋思へり  
森 J 道子（宇治町宇治）

## 俳句

秋の風 部屋いっばいに 入れて朝  
平松 幾代（長寿園内）  
宮さまの 御婚約記事 都鳥  
三村 節子（伊賀町）  
朝ぎりに 色鮮やかな 竜胆花  
結城 成子（宇治町宇治）  
秋が来て 山を彩る もみじかな  
吉岡 麻江（成羽病院内）

創刊号に誤りがありました。お詫びして訂正します。  
（正）身に余る 重き餅運ぶ 蟻二匹  
（誤）身に余る 重き餅運ぶ 蟻二匹  
長原茂子（備中町西油野）

## 地名を あらく

### 一、有漢

「有漢」は、高梁川の支流である有漢川に、四方を囲む四〇〇七〇〇mの吉備高原の山々から小さな谷川が枝状に流れ出る細長い盆地状の地域なのです。北東には備前、備中、美作の接点となる三飛峠四六〇mがあり、有漢の川関から落合へ越す落合往來の重要な峠でありました。その南には、頂上が尖り海拔五〇八mで中世に砦のあった飯の山があり、ふもとから有漢川へ川関川が流れて合流しています。有漢の東、旧賀陽町の境には笹目峠三七〇mが、その南、旧賀陽町との境に太平山六九八mが、谷川が有漢町へと流れ出ています。権現山（五九九m）は、有漢のシンボルで、「有漢富士」と親しまれ、権現様が宿る山として悪魔はらいや火伏祈禱など行っていた信仰の山でありました。北の四峰山（四ツ畝山）（五三三m）は北房町と境を接し、旭川と高梁川の分水嶺になっていて昔の大山道沿いに長代川が流れ中央の茶室付近に出て有漢川に合流しています。「有漢」の歴史は古く、「和名抄」に有漢郷の地名が書かれ、「宇賀通」とか「宇方」と和訓がつけられていて、「この「有漢」の地が当時の備中国賀夜郡有漢郷に比定されています。後の平安時代、応永元年（一三九四）の書物を文禄五年（一五九六）に写した「吉備宮惣解文」（岡山県古文書集）に、「上房郡三郡」として、「有漢郷から八連が櫻井尚春により納められた」と、「有漢」の地名が書かれています。

中世には、京都山城天龍寺領の「有漢保」という荘園でした（「講座日本荘園史」）。承久の乱後に功のあった相模国三浦一族の秋庭重信が有漢郷を与えられて入部し、中央部に残る台ヶ鼻城跡は重信が築いたといわれています。その後、仁治元年（延応二年）一二四

〇備中山城を築き備中中部を支配したといわれています。今までも墓や屋敷の石垣が残っています。近世は、上房郡に属し慶長五年（一六〇〇）幕府領その後元和三年（一六一七）から松山藩領、元禄七年（一六九四）より再び幕府領、そして元禄八年から松山藩領となり石川氏が延享元年（一七四四）転封後は中津井陣屋の支配を受け幕末を迎えています。

近代になると、有漢村と上有漢村が昭和三年に合併して有漢町となりました。「有漢」は「歴史の宝庫」といわれる地で散策すれば各地区に古い地名が残り、遺跡、神社、石碑などの文化財も多く分布して歴史のロマンを感じる魅力のある地域なのであります。「有漢」という地名の由来については、旭川支流の宇甘川は「うかいがわ」といわれ、宇甘御津町という場所も残って鶴飼地名だといわれていますが、「有漢」もこれと同じ意味で諸国のアユ産地におかれた部民、鶴飼部から変化した地名という説が有力な説です。地理学者の吉田東伍は「有漢」も「ウマ」と読み、「漢」の字は川を表わし天の川即ち天漢という「ウ・アマ」の略なので今は「ウカン」と読むようになります。「ウカイ」となったという説を唱えています。「ウガ」（崩壊地形に文字をあてて音転じた地名だという説）「ウマ」と称していたのが現在の「ウカン」の呼び方になって馬を飼育していた土地の意味だという説、「日本地名語源辞典」など本地名語源辞典）などがいわれていて、地名は歴史を語ってくれていても果たしてどれが正しいかとなると大変難しいのであります。（文・松前後洋さん）



有漢町市場方面を望む